

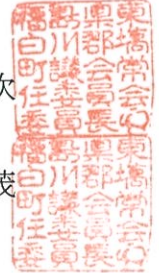
收受年月日	議 長	事務局長	書 記
30.12.5			
第108号			

平成 30 年 12 月 5 日

埴町議会議長 大縄武夫 様

総務常任委員会委員長 鈴木安次

経済常任委員会委員長 鈴木 茂



委員派遣結果報告書

本委員会は、下記のとおり行政視察を実施したので、その結果を報告します。

記

1 目的 過疎地域住民が運営するコミュニティバスの運行の取組み及び若者移住と農業についての先進地視察

2 経過

(1) 派遣期間 平成 30 年 11 月 5 日～7 日 (3 日間)

(2) 派遣先

秋田県横手市

新潟県十日町市 スノーデイズファーム (株)

3 派遣委員

総務常任委員 鈴木安次、小峰由久、吉田克則、高縁 光、青砥與藏、大縄武夫

経済常任委員 鈴木 茂、七宮広樹、藤田一男、割貝寿一、吉田広明、下重義人、鈴木孝則

(随行者 議会事務局長、書記)

4 視察内容

(1) 秋田県横手市

過疎地域における共助組織による有償旅客運送事業の取組み

(2) 山形県十日町市 スノーデイズファーム (株)

「雪の日舎」の取組みについて (子育てと農業)

3 結果

(1) 所 見

① 横手市 地域住民が運営するコミュニティバスの運行

横手市は1市7町が合併をして埴町の3倍を超える面積を有している。特に山間部のバス路線が赤字であり、新たな地域公共交通の在りかたを探る為に共助組織による実証実験を経て路線バスを廃止し、「狙半内共助運営体」運用のミニバン6人乗りによる有償旅客運送事業を行っている。バスは公用車として全て市が管理し一日3往復、週4日間運行している。運転手は1日6千円の報酬で共助体より6人のかたが交代で行っている。

埴町の場合は路線網が多岐に渡るため、デマンドタクシーとコミュニティバスの複合体系など地域公共交通の在り方総合的に検討すべきである。

② 十日町市 「雪の日舎」の取組み（子育てと農業）

十日町市は平成17年4月1日に5市町村が新設合併して誕生した。新潟県南部の長野県との県境に位置し、毎年の平均積雪は2mを超え全国有数の豪雪地帯となっている。

農地利用最適化推進委員 雪の日舎代表 佐藤可奈子氏から農村で未来をつくる「移住女子」の話聞いた。佐藤可奈子氏は大学時代、ボランティア活動の中で中越地震の被害地新潟県十日町市池谷集落での活動をきっかけにこの地に移住し、農業に従事しました。様々な失敗を糧に都会からの移住者の受け皿として「かなやんファーム」という農園を経営し、7年経った現在は異業種の仲間と共に「雪の日舎」を設立、いろいろな活動に取り組んでいます。移住者による農業生産はもとより、加工品による商品開発の他子供達を育てる環境づくりも行っています。それは大学時代ボランティアで訪れたカンボジアの子育てをヒントに「仕事」「子育て」「暮らし」を一体化した「農村まるごとようちえん」の考えにたどりついたとのこと。時間の都合で詳しく聞けませんでしたでしたが私たちが親に連れられて田んぼや畑にいき、学校に上がるまで遊んでいたときのような感じではないかと思えます。

埴町としてはまずは埴町に来てもらう、町の良さを知ってもらう、そして何日間か住んでももらう。1日や2日ではよくわかってはもらえない。地域おこし協力隊の方たちの力を借りるのも良いと思う。いかに若い人たちに住んでもらうかよく考えて取り組むべきである。

(2) 委員報告書

別紙のとおり

收受年月日	議長	事務局長	書記
20.11.22	議員派遣		
第 号	委員派遣		

様式 1 2

調査研修等報告書

平成30年11月22日

議会議長
委員会委員長 様

提出者 高 緑 光

派遣目的 (調査等 名称)	埴町議会 総務 経済常任委員会 合同視察研修 雪の日金の取組み(子育てと農業)		
派遣の 日時	平成30年11月7日(木) 午前10時	派遣先 (場所)	新潟県十日町市池谷集落 民宿(かくら)
内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 農村で未来をつくる移住女子 代表 中 佐藤可奈子 ○ 6軒で農業会社を設立(大学で政治学を学ぶ) ○ 現在9軒 3軒増 外国にも行く経験もある ○ 農業の中で大切なものが有ると感じたので始める。 ○ 生産者と消費者の出合が出来る。 		
派遣 結果 (意見 及び 感想)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高度経済政策で若者が都市に流れる ○ 人を育てる それは生産される作物で商品の開発 かていきる。 ○ 考え方は良いと感じた。 ○ 今後TPPによる輸入農産物に対してどの対策に 対応するのか! ○ 農業は職業の受け皿にもなると思われた。 努力が必要になると思われる。 ○ 冬の間はどのようにして11なのか 商品の開発と 思われるか どの様に11なのか! 		

收受年月日	議長	事務局長	書記
30.11.22	委員派遣	委員派遣	委員派遣
第 号	大塚	宇野	根本

調査研修等報告書

平成30年11月22日

議会議長
委員会委員長 様

提出者 高縁光

派遣目的 (調査等 名称)	埴町議会 総務経済常任委員会合同視察研修 公共交通の取組について。		
派遣の 日時	平成30年11月5日(月)午前 7時埴町役場出発 午後2時より	派遣先 (場所)	秋田県横手市役所本庁舎 第1会議室
内容	<p>議長歓迎の挨拶 説明者 総合政策部経営企画課</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本格開始平成30年10月1日 ○ 車両は個人公共車2台で行っている 運転者は60才〜74才 7名で1日6000円で行っている ○ 車両トヨタ自動車定数7名手オリ付き 免許返納者 にはチケットで行っている。 		
派遣 結果 (意見 及び 感想)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 詳細は考え方で取り組み実施されたと思われる ○ 埴町でも実施出来ると思われる。 		

收受年月日	議 長	事務局長	書記
30.11.19	委員派遣	委員派遣	調査
第 号			

調査研修等報告書

平成 30 年 11 月 19 日

議会議長
委員会委員長 様

提出者 小峰由久

派遣目的 (調査等 名称)	総務、経済常任委員会		
派遣の 日時	H30.11.5~7	派遣先 (場所)	山形県十日町市 秋田県横手市
内容	<p>1. 共助組織による有償旅客運送について</p> <p>2. 移住者対策について</p>		
派遣 結果 (意見 及び 感想)	<p>1. 過疎加進む地域に於ける公共交通の維持は重要な問題でありその一つとして共助組織による運行は大事な手段の一つとして検討する価値はあると思う</p> <p>実施迄の問題点として</p> <p>① 既存の業者との利解と合意</p> <p>② 運行予定地住人の協力(運営運転)</p> <p>③ 運行開始目標設定と専任取員の配置</p> <p>等積極性と責任ある人材の登用が必要であると感じた。</p>		

2. 移住者の定着促進について話を聞いた。

◦ 地域住民との交流がいかに大切か。

◦ 女性が主役の移住策

◦ 協力隊の人材が断内を自由に行動して欲しい
自分のやりたい事、住みたい場所をみつけて
活動させる事が、次へのステップが始まると思っ

横手市行政視察報告

視察日 平成 30 年 11 月 5 日 月曜日

場 所 横手市役所本庁舎・第 2 委員会室

收受年月日	議 長	事務局長	書 記
30.11.19			
第 号			

視察内容 有償旅客運送について

平成 29 年 11 月～平成 30 年 9 月までの 11 か月間の実証実験を行った結果、利用者の継続希望の声が多く、この結果を踏まえ、羽後交通鍵〔上畑線〕路線バスを廃止し、狙半内地区共助運営体がミニバンによる送迎運行を開始。

概 要

運営委託先 狙半内共助運営体
 運 転 手 男子 7 名 【60 才～69 才】
 運 行 回 数 一日 4 往復 2 時間おき 乗り降り自由。
 車 両 7 人乗りトヨタミニバン 1 台
 利用 料金 狙半内地区内 200 円乗り降り自由、中心地 400 円～その地区あり
 経 費 400 万円

埴町の対応と自主運行の可能性

- 1、福島交通との交渉 線の廃止
- 2、地区運営体の設立 運転手確保 【八塚・片貝地区 1.5h・4 往復】
 運行距離 35 km×4 往復=150 km 週 3 日、年間 156 日
 ガソリン 150×156 日=23400 160 円×23400=374400 円
 人件費 1000 円×6 h=6000 円 6000 円×156 日=936000 円
 年間経費 1310400 円 【車両経費を除く 100 万円】
 運賃無料としても年間 230 万円 人件費に賞与を付けても 300 万円
- 3、那倉・田代線と常豊・真名畑線を含めて 1000 万円

※ 生徒通学の課題がクリアすれば町立バス運行・地域共助運営バスは成立する。

・ヤル気・勇気・決断・細やかさ。

路線を持つ福島交通との交渉は、町負担の削減で対応すべき、また無料・地域負担・個人負担などで対抗すれば、実際に福島交通の運行は、補助金無しでは無理です。放棄します。問題は、町・地域運行管理が可能かです。費用対効果に問題はないです。



議会議長 大縄武雄様

議員 青砥與藏


十日町市〔移住女子〕現地視察報告

視察日 平成 30 年 11 月 7 日 水曜日

場 所 十日町市 池谷集落 民宿かくら

講 師 佐藤可奈子 22 歳+13 歳

講演内容

收受年月日	議 長	事務局長	書 記
30.11.19			
第 号			

1、起点・価値観

当時、JENは池谷集落で震災復興の活動をしていた。海外で活動するJENが日本の片隅の小さな集落でもしている。とても不思議で興味本位で参加した。それ以来、何度も通うなかで、集落の人たちの土に向かうことを通して、農業が生む、生き方、哲学、文化をたくさん教わった。

〔わけのわからないことが多い不安な時代の中で、村で出会ったものは手触りがあった〕

〔変化の時代にとって大切なものが、ここにある〕

〔ここには何にもないから、大切なものがよく見える〕

〔ぼちゃり体型コンプレックスは、ここにはない〕

2、定住の決断

香川県生まれ、非農家、世間知らず、役立たず、22歳の移住女子を地域の師匠は見放さず、信じ、育ててくださった。この地域にその感謝の気持ちをお返ししたいと、今も農業を続けている。

3、移住女子の考え

移住女子たちの話を聞くと、結婚、出産、介護など、人生の変化の中で葛藤し、決断と諦めの中で一年も住めば、自力で仕事を見つけ、生み出し、何とか生きている。

自分のものさしで暮らしたい場所で、したい暮らしがしたい。一步踏み出した彼女たちはとても自然体だ、だから地域にすぐ馴染む。触媒になる存在になる。

等身大で自分の人生を生き、農村で夢を叶え、その道中助けてもらった地域に対して感謝の気持ちを抱くようになる。

4、決断の後押し

多様な担い手の確保といわれるが、地域のためにお押し付けるのではなく、まずは本人を信じ、夢を追いかけてあげることだろう。

5、農村が持つこどもをはぐくむ力

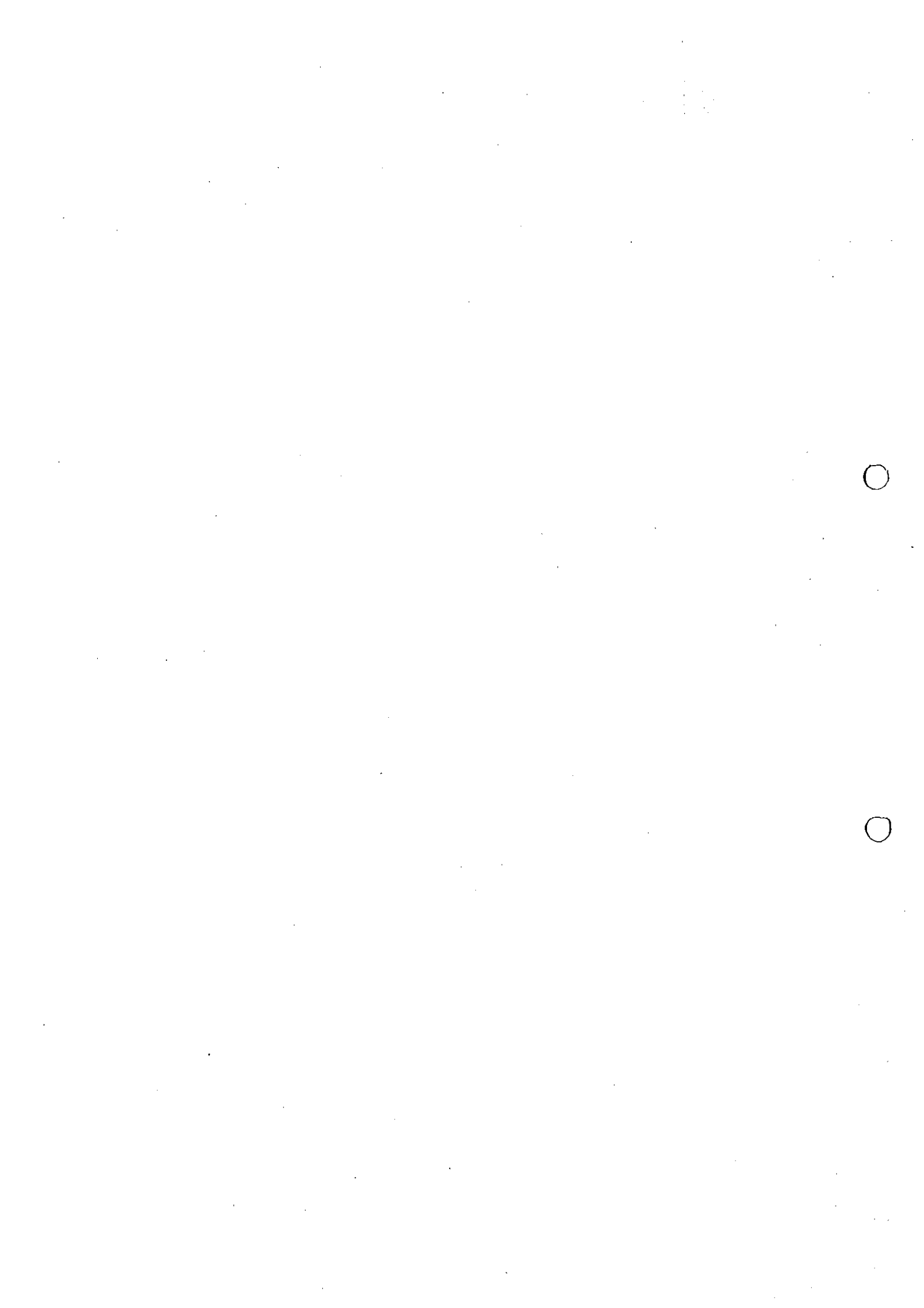
地域の人や家族、親戚の方たちも一緒に作業するので、たくさんの人のこどもを見守る目があり、母は楽し、子供は多様な人と触れ合い楽しそう、農村のよさを改めて実感した。



收受年月日	議長	事務局長	書記
2020.11.2			調査
第	号	氏名	吉田 克則

調査・研修等報告書

提出年月日	平成 30 年 11 月 21 日		
調査等名称	総務常任委員会及び経済常任委員会行政視察		
調査等の日時	平成 30 年 11 月 5～7 日	場所	秋田県及び新潟県
調査等の内容 意見 感想	行政視察先 11/5 横手市議会視察 11/7 十日町市議会視察		
	横手市議会視察 横手市行政視察 公共交通空白地域における有償旅客運送事業について 横手市では、新たな地域公共交通のあり方を検討するため「トヨタ自動車株式会社」、「狙半内共助運営体」の協力で平成 29 年 11 月～平成 30 年 9 月までの間、共助組織による有償旅客運送の実証実験を行い、利用者からの運行希望の声が多数ありこの地区の路線バスを廃止して共助組織による送迎ミニバン運行に切り替えた。利用者も徐々に増え「地域の足ミニバン」として機能発揮に期待がよせられていた。我が町においても地域公共交通のあり方を総合的に検討し前進すべきと感じた。		
	十日町市議会視察 十日町市行政視察 雪の日舎の取組みについて（子育てと農業） 十日町市は平成 17 年 4 月 1 日に 5 市町村が新設合併して誕生した。新潟県南部の長野県との県境に位置し、毎年の平均積雪は 2 m を超え全国有数の豪雪地帯となっている。 農地利用最適化推進委員 雪の日舎代表 佐藤可奈子氏から農村で未来をつくる「移住女子」の話聞いた。冬になると 4 m 近くも雪が積もる豪雪地帯、山あいの小さなむら「池谷集落」に活動拠点を構えている。70 歳を過ぎても皆が夢を語り「集落存続」をみんなで一生涯懸命頑張っている姿、希望集落との出会いが取り組みのきっかけ。非農家出身、ゼロからの就農。集落の方にお世話になり今の私がある。少しでも地域の方に感謝の気持ちをお返ししたいと農業を続けている。移住後の農業は失敗だらけという。中山間地域の仲間を増やしたいと思い「I ターン留学イナカレッジ」を運営。移住した女性 4 名で「移住女子」を結成し情報誌を発刊し都会と農村をつなぐ。農業や農村が持つ、「こどもを育む力」を引き出せる言葉に感動した。		



收受年月日	議長	事務局長	書記
30.11.22	議員派遣	委員派遣	調査
第 号			

様式 1

調査研修等報告書

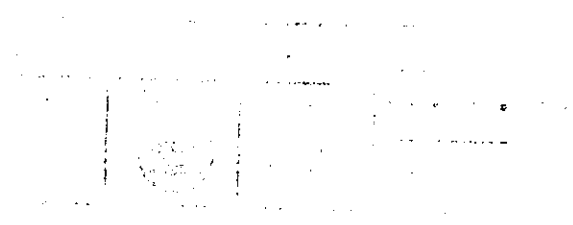
平成 30 年 11 月 22 日

議会議長
委員会委員長 様

提出者 鈴木安次

派遣目的 (調査等 名称)	総務・経済常任委員会合同調査		
派遣の 日時	平成 30 年 11 月 5, 6, 7 日	派遣先 (場所)	秋田県横手市、新潟県十日町市
内容	横手市共助組織による有償旅客運送について 新潟県十日町市雪の日舎の取り組みについて		
派遣 結果 (意見 及び 感想)	<p>秋田県横手市、新潟県十日町市の両議会事務局の職員さんには丁寧な対応をしていただき御礼申し上げます。</p> <p>秋田県横手市の取り組みであるが、新たな地域公共交通の在り方を検討する為に「トヨタ自動車株式会社」の協力を得て 11 か月にわたる実証実験を行った。</p> <p>実証実験の結果交通の不便な地区の路線バスを廃止して共助組織による「狙半内共助運営体」による送迎を運行することになった。</p> <p>埴町も公共交通の実証実験を行っているが成果はイマイチである。</p> <p>行政が行うと地域住民は何故か利用しない。</p> <p>埴町は山間部がほとんどであるので、地域の人が足の不自由な人たちの為に運転をして病院や買い物のお手伝いをする共助組織を早急に上げる必要がある。</p> <p>地域の人が運転をするのも一つの方法であるが、道の駅埴の組織の中に運輸部を立ち上げ、人の移動と農産物の搬入を同時に行える方法が出来ないか検討する必要がある。</p> <p>新潟県十日町市の雪の日舎の取り組みを説明して頂いた佐藤さんは香川県の出身、移住しやすいのは女性であると言う。</p> <p>その為にはお試し移住が有効とのことであったが埴町にはお試し移住制度がないので整備も急がれる、埴町では地域おこし協力隊はいるが移住には結びついていないのが現実である。</p>		

埴町議会



收受年月日	議長	事務局長	書記
20.12.11	議員派遣	委員派遣	調査
第 号	大綱	本	根本

研修等報告書

平成30年12月11日

議会議長
委員会委員長

様

提出者 劉 貝 新 一

派遣目的 (調査等 名称)	総務 経済常任委員会合同視察研修		
派遣の 日時	平成30年11月5日～7日	派遣先 (場所)	秋田県横手市 新潟県十日町市
内容	(1) 横手市 地域住民が運営するコミュニティーバスの運行 (2) 十日町市 雪の日舎の取組み(子育てと農業)		
派遣 結果 (意見 及び 感想)	(1) 地域公共交通の在り方を検討し 共助組織 による有償旅客運送の実証実験と 人口まばらな過疎地域で行った 11ヶ月間の結果、住民の要望に心いて 市管理のミニバスで登録した7人の運転手 による運行となった。 ミニバスの為、1度に乗車人数が限られる 不便もあるが 行動に転じた事は素晴らしい (2) 雪の日舎 代表は非農家の香川県生まれ 東京の大学卒業後 小さな集落に物産 若い女性と言えども 早くから NPO、復興ボランティア のかかりがあり 凡人ではないとであった。 共感する若い男女が農作業等に 従事する姿は 採算と気とする自分には 考えられないか 人生一度限り それぞれ価値感はず違って ……ものと思った。(特に若い時は)		

議員派遣
委員派遣



調査研修等報告書

平成 30 年 1 1 月 1 2 日

議会 議長
委員会 委員長 様

提出者 鈴木 孝則

派遣目的 (調査等 名称)	総務経済合同視察研修		
派遣の 日時	平成 30 年 1 1 月 5 ~ 7 日	派遣先 (場所)	秋田県横手市・新潟県十日町市
内容	<p>1 横手市 共助組織による有償旅客運送について</p> <p>2 十日町市 雪の日舎の取り組み (移住・子育てと取り組み)</p>		
派遣 結果 (意見 及び 感想)	<p>1 横手市増田町狙半内地区では地域の問題解決に当たり地域住民が主体となり助け合い・支えあいの精神で屋根の雪下ろしや沿道の草刈りなどを行い安心して住み続けられる地域づくりを推進するため会員約 40 名で「狙半内共助運営体」を組織しその一環として有償の送迎サービスを行っている。予算(助成金)は減価償却や燃料、保険、人件費など経費込みで年 400 万円。運転手登録は 7 名で基本 1 日 1 名、日当 6 千円で運行し利用者が多い場合は登録済の奥山会長の車で運行している。デマンド交通というのと全てを行政に頼りがちだがスーパーの好意での無料買い物バス運行や助成対象の羽後交通の運行日や路線を考慮しつつ細やかな運行をしている。埴町においても今後の参考になる研修でした。</p> <p>2 佐藤さんが移住した 7 年前十日町市池谷集落は 6 戸 13 人であったが集落存続の努力を続け模索している住民がいた。佐藤さんは国際 NGO JEN の活動に参加して池谷集落とかかわり移住を決意したそうで、たぶん農村にあこがれ、農業を甘く見ていた夢見るお嬢さんだったから飛び込めたのかもしれない。様々な失敗を重ねながらも地域住民に支えられ、あきらめずに頑張りを続けて今の彼女があると思う。昨年からは農園名を雪の日舎と改め保育士や栄養士など異業種の人たちもチームに組み込み農業や農村が持つこどもをはぐくむ力を引き出せるフィールドを作ろうとしている。佐藤さんが築き上げた橋頭保を拠点に輪が広がり地域に夢としあわせが広がることを願っています。</p>		




收受年月日	議 長	事務局 長	書 記
30.11.12			
第 号			

埴町議会

委員長 



総務・経済常任委員会合同視察研修報告書

收受年月日	議長	事務局長	書記
30.11.9			
第 号			

日時 平成30年11月5~7日

場所 秋田県横手市・新潟県十日町市

提出者 鈴木茂

(総務課長  (経理課長 

1 横手市 共助組織による有償旅客運送について

横手市は1市7町が合併をして埴町の3倍を超える面積を有している。特に山間部のバス路線が赤字であり、新たな地域公共交通の在りかたを探る為に共助組織による実証実験を経て路線バスを廃止し、「狙半内共助運営体」運用のミニバン6人乗りによる有償旅客運送事業を行っている。バスは公用車として全て市が管理し一日3往復、週4日間運行している。運転手は1日6千円の報酬で共助体より6人のかたが交代で行っている。現在地域の方からの評判は上々である。今後の課題があるとすればバスが少し小さく10人乗りにしたいとのことである。

2 十日町市

「雪の日舎」代表佐藤可奈子氏は大学時代、ボランティア活動の中で中越地震の被害地新潟県十日町市池谷集落での活動をきっかけにこの地に移住し、農業に従事しました。様々な失敗を糧に都会からの移住者の受け皿として「かなやんファーム」という農園を経営し、

7年経った現在は異業種の仲間と共に「雪の日舎」を設立、いろいろな活動に取り組んでいます。移住者による農業生産はもとより、加工品による商品開発の他子供達を育てる環境つくりも行っています。それは大学時代ボランティアで訪れたカンボジアの子育てをヒントに「仕事」「子育て」「暮らし」を一体化した「農村まるごとようちえん」の考えにたどりついたとのこと。時間の都合で詳しく聞けませんでした。私たちが親に連れられて田んぼや畑にいき、学校に上がるまで遊んでいたときのような感じではないかと思います。大金を使っただけのこども園建設、保育園幼稚園の無償化、給食費の無料化の議論に一石を投じるものであると思います。移住に関することでは総務省が行っている地域おこし協力隊について、あまり型にはめこみすぎでもう少し緩やかにしないと長つづきはしないと話されました。




議員派遣
委員派遣

調査研修等報告書

平成 30 年 11 月 8 日

大縄 武夫 議会議長 様

收受年月日	議 長	事務局長	書 記
10.11.8			
第 号			

提出者 吉田 広明




派遣目的 (調査等 名称)	<p>(給)委員 (給)委員</p> <p>総務・経済常任委員会合同視察研修</p>		
派遣の 日時	平成 30 年 11 月 5 日～7 日	派遣先 (場所)	秋田県横手市、新潟県十日町市
内容	<p>秋田県横手市 地域住民が運営するコミュニティーバスの運行について 新潟県十日町市 雪の日舎の取り組み（子育てと農業）について</p>		
派遣 結果 (意見 及び 感想)	<p>横手市のコミュニティーバスの運行は、「狙半内共助運営体」7名の組織による有償旅客運送（国土交通省のモデル事業）。市内にトヨタ自動車のサプライヤー工場もあり、車両は実証実験後、残価分で安く購入した。本格運行は平成30年10月（路線バスは9月廃止）から、月火水木の週4日（金曜日は地元スーパーのバス運行対応）、日/4往復（片道25km）、山間地域から病院エリアまでを運行する。車両は公用車（一般自動車保険対応・諸経費含む）であり、乗車料金は、現金で200円～700円（障害者50%割引）、団体への補助金は月/20,000円、日当10時間勤務/6,000円、計画時に、通院の利便性や乗降場所などの意見の聞き取りをする。本年5月のアンケートで不満などの意見はなかった。その他、市内全域でデマンドタクシーもあり、将来はAI自動運転も考えている。埴町の場合、路線網が多岐に渡ると思われるので、デマンドタクシーとコミュニティーバスの複合体系を検討すべきである。</p> <p>十日町市は「大地の芸術祭」など独自性が見られ、2015年の来場者は510,690人と国内外に成功を収めている。職員の話では、山間部が多く、近隣との1次産業の大規模競争力に限界を感じ、交流人口の拡大に取り組んでいる。「雪の日舎」の取り組みでは、「はぐくみのそばに里山時間を」のコンセプトにもものづくりを行う農園を展開。農家、保育士、管理栄養士、建築家、コミュニティーソーシャルワーカーが所属し、集落や小規模農業を持続可能にする取り組みがある。特にキッズファームブランド、子供のおやつ開発などでECショップ運営や2018年度より「農村まるごとようちえん」の場所づくり、「若者に好きなことをする場」の提供などは、埴町としても手本になる所である。埴町も時代の変化に気づかなければ、高齢化に向かうだけで、子供は増えない。若い人たちや若い移住者が要になる。提案しているママカフェのコンセプトは農業女子も含まれる。</p>		

3/1/19

0

0

総務・経済常任委員会合同視察研修報告書

收受年月日	議長	事務局長	書記
30.11.9			
第 号			

日時 平成30年11月5~7日

場所 秋田県横手市・新潟県十日町市

(総)経長  (総)経長 

提出者 藤田 一男

1、横手市公共交通について

有償旅客運送事業は埴町でも取り入れられるのではないかと思います。
ただ、地理的な問題や、条件、運送法などクリアしなければならない事があります。共助の体制作りが出来るのか、運行する車はどうするのか、又タクシー会社やバス会社との調整など、
今後、増えるであろう交通弱者の為にも進めなければならない事業である。

2、十日町市、雪の日舎の取り組み。

移住女子、素晴らしい取り組みです。
キッカケは、中越地震のボランティアに参加したのがスタートと説明されました。
数回、来ているうちに、地区の良いところが見えて来たとの事です。
まずは埴町に来てもらう、町の良さを知ってもらう、そして何日間か住んでもらう。
1日や2日ではよくわかってはもらえない。
地域おこし協力隊の方たちの力を借りるのも良いでしょう。
いかに若い人たちに、住んでもらうかよく考えて取り組むべきである。

